



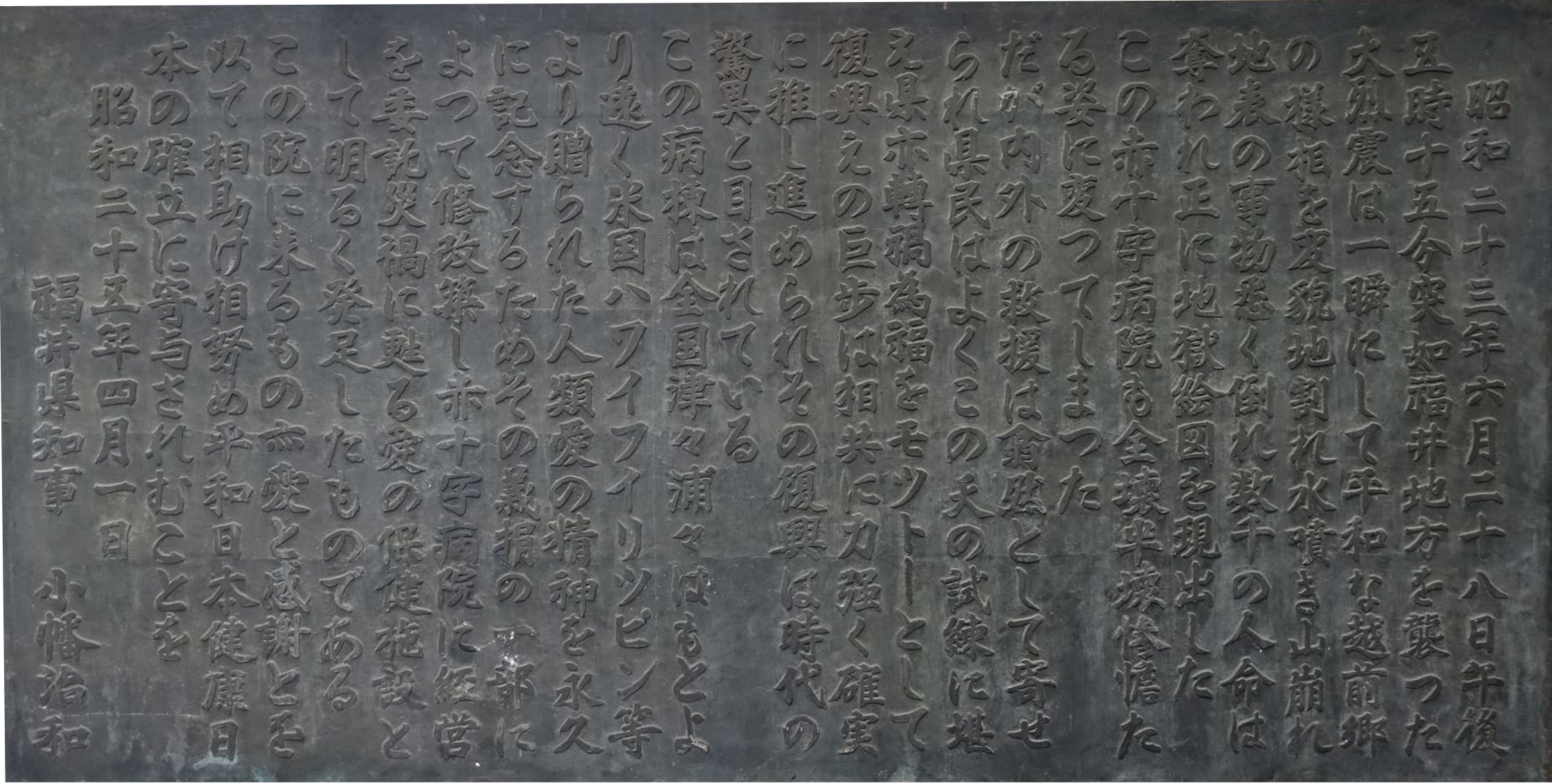
昭和25年(1950年)

戦争、福井地震、病院火災

～度重なる災禍を乗り越える～



5年の間に戦争、地震、火災と立て続けに襲われ、のちに2代目院長柳 武夫は「一番苦難の時代」と述懐した



◀当時の福井県知事が福井地震からの福井赤十字病院復旧に際して、述べた言葉が残っています

(以下要約)
昭和23年6月28日に発生した福井地震により、多くの人命が失われ、大きな被害を受けました。
この地震に際して多くの支援が寄せられ、福井県民は「災い転じて福となす」の精神で復興作業に当たり、復興が力強く確実に進められました。そのことは非常に驚くべきことです。
福井赤十字病院の修築は、日本国内はもとより、米国、ハワイ、フィリピンなど海外からも義援金が寄せられました。復旧した福井赤十字病院は愛と感謝の精神をもって運営され、平和で健康な日本の実現に寄与することを望みます。
昭和25年4月1日 福井県知事 小幡 治和



▲福井震災直後

開院から四半世紀の節目を迎えようとしていた頃、福井赤十字病院は戦災、地震、火災という災禍に見舞われました。昭和20年(1945)7月にB29による爆撃を受けるなど、戦災で8病棟が消失。戦争が終わり復興に向かう昭和23年(1948)年6月には、震度7を記録した福井地震により壊滅的な被害を受けました。さらに、その2年後の昭和25年(1950)11月に、外来の天井裏の漏電により出火。ケガ人はなかったものの、外来や手術室などを焼失しました。火災後に柳院長は病院募金を企画し、昭和27年(1952)8月に復旧工事が完了しました。



- 昭和25年の出来事
- ・朝鮮戦争が始まる
 - ・日本で最初のスーパーマーケットができる
 - ・千円札(聖徳太子像)が発行される
 - ・冷蔵庫や洗濯機などの電気製品が発売される